第十一回ハイクアート賞発表！

俳句美術館・第十一回「ハイクアート賞」に多数のご応募をいただき有難うございました。『俳句部門』では、八木健の制作したアート九点に俳句をつけていただきました。『ハイクアート部門』では、アートと俳句の両方をご自身で作っていただいてご応募いただきました。応募総数は、俳句部門が二三七点、ハイクアート部門が二九点で、十三歳から九十歳の方がご応募くださいました。

審査の結果、以下の通り、大賞、選者特選、秀逸、入選の各賞を決定致しました。

俳句部門

大賞

夕焼ややり直したい恋がある

茨城県　舘健一郎

【講評】夕焼の美しさ、烈しさに心揺さぶられてこの感懐が生まれた（中山）。やり直したい恋があるうちが花。恋愛体質のあなたが羨ましい（冨士）。夕焼は人をロマンチックに、そして、大胆にさせるものである（八木）。

特選

小西昭夫賞

ひまわりやだれのものでもない地球

茨城県　舘健一郎

【講評】ひまわりはウクライナを代表する花。核の脅威をちらつかせるロシアへの憤りを感じる。地球は誰もが平和に暮らす場所。

中山和子賞

バカボンの頬にうずしおソーダ水

京都府　笘屋閑人

【講評】ホント、天才バカボンの頬に赤いうず潮があるのを思い出した。作者のこの発見が句のポイント。ソーダ水を飲みながらバカボンを読んでいるのだろう。楽しい句である。

冨士眞奈美賞

山滴る女将のくれし塩むすび

愛媛県　荒川　月

【講評】二度三度読み返すうち、温かいいい句だなあと。「山滴る」と「塩むすび」の繋がりが良かった。きっと清楚な女将ですね。

松本勇二賞

枯葉てふ余生を生きてゐる枯葉

愛媛県　日根野聖子

【講評】枯葉という余生を生きているのは作者と思いきや枯葉であるという予想しない展開に吸引力があった。機知に富んだ一句。

八木健賞

かなしみを負ひてあまたの蝸牛

広島県　帆足あさ

【講評】蝸牛は群れることの少ないもので、なんとなく孤独感が漂う存在である。蝸牛を眺めていて作者が感じたことに共感した。

秀逸

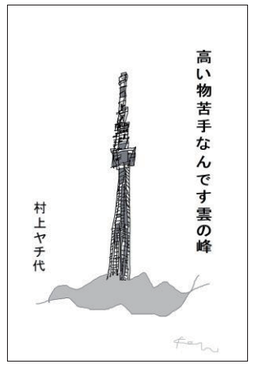
蝸牛もう聞こえない友のこゑ

埼玉県　稲葉純子

【講評】天上界へ去ってしまった友を思いながら、地上で緩やかに歩みながら、その声を偲んでいる。自分を蝸牛に仮託していると読んだ（中山）。ご友人の声が聞こえなくなった理由はともかく、上五の蝸牛から中七下五への急展開に冴えがありました（松本）。

高い物苦手なんです雲の峰

東京都　村上ヤチ代



【講評】「馬鹿と煙は高い所が好き」という言葉がある。この方は苦手と言っている。苦手なものから雄大な景色を堪能している様が可笑しい（中山）。俳句にスカイツリーは出てこないが、アートとコラボした時に楽しい。「高い物苦手なんです」という口語の発想も楽しい（小西）。

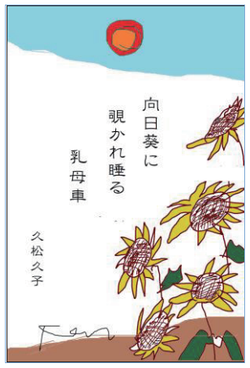
遠き日の路地の夕焼け通りやんせ

奈良県　堀ノ内和夫

【講評】ノスタルジー満載の一句です。昭和世代の読者であれば、誰でもこの光景に反応するでしょう。晩夏特有の寂しさも少なからず感じさせます（松本）。

向日葵に覗かれ睡る乳母車

大阪府　久松久子



【講評】すやすやと眠る子どもの寝顔が目に浮かぶが、向日葵の表情も想像できて楽しい。平穏で静かな時間が流れ、それはまさに平和そのものである。（八木）。

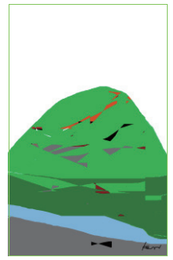
臨月の蟷螂威風堂々と

東京都　村上ヤチ代

【講評】蟷螂は俳人好みの昆虫だが臨月の蟷螂には初めて出合った。しかも威風堂々とはまいった。生命誕生の威厳を見事に表現（小西）。

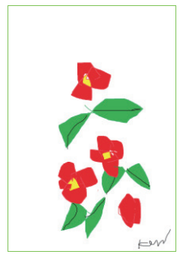
入選

アート① 山



お四国や山また山の瑞穂かな　沖枇杷夫
胸中の三点リーダー夏深し　平木俊輔
炎天の鬱蒼の山ロープウェイ　井野ひろみ

アート② 椿

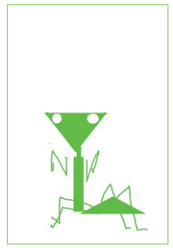


生垣に椿こっそり銀閣寺　帆足あさ
彼の世へは落つる椿をお手本に　井野ひろみ

アート③ かたつむり

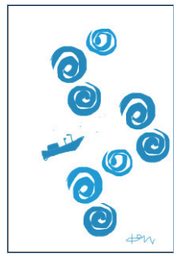
一ミリの過去をひきずるかたつむり　舘健一郎
かたつむり後ろ姿は未確認　工藤泰子
隠し事無き私生活カタツムリ　遠藤真太郎

アート④ カマキリ



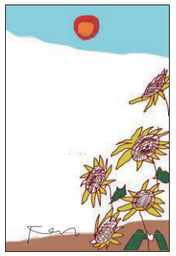
蟷螂の死しても挑む構へして　久松久子
ファイティングポーズのままに秋夕焼　遠藤玲奈
カマキリも虫も無人直売所　舘健一郎

アート⑤ うずしお



春の海壁ばかりだが超えてやる　沖口　稜
うずしおは回るよ回るただ回る　秋田聡子
渦潮の渦に魅せられ酔はされて　稲葉純子
大渦を右に左に観潮船　海神瑠珂
うずしおや青き舌見すロリポップ　村上ヤチ代

アート⑥ ひまわり



戦無きひまわり畑取り戻す　堀ノ内和夫

アート⑦ 夕焼け

けんかして仲直りするゆやけかな　森野哲州
夕焼けや花いちもんめあの娘欲し　沖枇杷夫

アート⑧ 枯葉

侘び寂びをふはりと纏ひ枯葉舞ふ　稲葉純子
枯葉落つ結婚願望まだ枯れぬ　沖枇杷夫
失恋を癒すパトロン枯葉かな　遠藤真太郎

アート⑨ スカイツリー

朔風と立ってるだけの電波塔　戸田脩公
スカイツリーへちよつと寄り添ひ夜半の月　稲葉純子
シリウスに近づきたくて背伸びして　小野田稟子

ハイクアート部門

大賞

長生きの秘訣と問へば日向ぼこ

岡山県　潮風（写真）

【講評】
亀と言えば万年。その亀たちが集まって日向ぼこ。長生きしたいのでしょうか、やっぱり。数えちゃいました（冨士）。十数匹の甲羅干しの写真が楽しい。亀に長生きの秘訣を問えば、答えは「日向ぼこ」。ユーモアのセンスが抜群（小西）。亀はみな首を出していて動きがある。水面にもそれが映っていて秀逸（中山）。古くからの言い習わしを上手く使った楽しい作品（八木）。長寿のお爺さんやお婆さんの余裕の笑顔が浮かびます（松本）。

特選

小西昭夫賞

菜の花の天麩羅食べたい日曜日

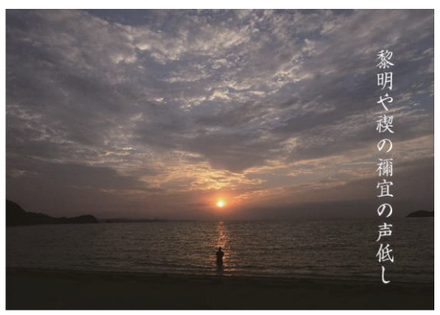
東京都　小川かをり（写真）

【講評】
うどんよりは少し太い感じなので、きしめんだろうか。それを食べているいかにも昭和といったモノクロの女の子の写真が実にいい。それに合わせた句も、食べているのではない、菜の花の天婦羅を食べたいと意表を突いてくる。手書きの句の大きさも色づかいも句を際立たせていて素晴らしいコラボである。

中山和子賞

黎明や禊の禰宜の声低し

岡山県　牛鬼（写真）



【講評】
写真と俳句のどちらも完璧。俳句の配置もいい。夏の夜明けの日が、一人の人物へ海の上を波の形で伸びてきて終結する。この写真の構図もいい。海と空の比率七対三くらいであろうか、これもいい。七の空の雲もただごとならず夏越しの禊を行う禰宜を荘厳にしている。

冨士眞奈美賞

いざ出陣日本の稲田任せあれ

岡山県　貞住みえこ（写真）

【講評】
写真がとても面白く、俳句も小気味いい。滑稽味もあって印象的です。

松本勇二賞

郭公に終末時計托さるる

岡山県　Ｓｋｙ（写真）

【講評】
作者は終末時計を郭公から託されたようです。大いなる虚構ですが、それに存在感があるのは提示された陶芸作品によるものでしょう。この成功とも失敗とも思える陶芸作品が作品の核となりました。

八木健賞

蝶の夢花から花へ舞い踊る

静岡県　俳　句：知音
アート：安田幸大（切り絵）

【講評】
切り絵の技量が素晴らしい。色彩の濃淡で遠近感、蝶の動きを表現するなど完成度が高い。「蝶の夢」がリアルに映像として再現されている。

秀逸

灼け砂に早く来いよとおどる父

東京都　佐治心結（着物古布）

【講評】
海水浴で一番張り切っているのはお父さんでした。「おどる父」の措辞が見事です。布絵の父からもエネルギーが溢れています（松本）。一番はしゃいでいる父親を詠んだ句が印象的である。布絵はどんな布を選ぶかが大きなウエイトを占める（小西）。

赤げらのドラムのソロやぶなの森

京都府　笘屋閑人（写真）

【講評】
ブナ林は春の残雪から秋の黄金色の黄葉まで美しい。世界遺産登録した白神山地のブナ林は有名。葉が薄いので森といっても中は明るい。啄木鳥は求愛か春を呼んでいるか、森は一層明るさを増す（中山）。ぶなの森が鬱蒼として、どこにいるやら赤げらくん。ドラムのソロが森を貫いたのでしょう（冨士）

恋心花から花へ軽やかに

埼玉県　稲葉純子（切り絵）

【講評】
この作品も切り絵の技量が高い。句は花から花へと移る蝶の恋心をうたっているもので、作品のテーマが明確に出ています（八木）。蝶と花の背景が朱と青で美しい。「花より花へ」という「椿姫」のアリアが好きなので、イメージがふくらみました（冨士）。

派手好きの親に劣らぬ厚化粧

神奈川県　八十日目（写真）

【講評】
幼虫の段階でかなり派手で親に劣らぬ美しさである。表現に滑稽味がある（八木）。アバンギャルドで前衛的な色合い、柄は素敵。自然は時に凄い技を見せてくれる（中山）。

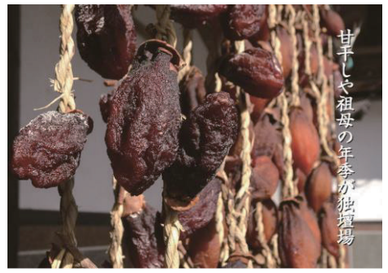
あたしもね母ちゃんみたいな蝶になろ

岡山県　牛鬼（写真）

【講評】
芋虫に将来を語らせてユニーク。呟き俳句ですね。存在そのものがアートです（松本）。

入選

甘干しや祖母の年季が独壇場
岡山県　潮風（写真）



夕映の稜線谷は霧の底
栃木県　玲峰（水墨画）

吹けぬまま飾ってをりぬひょんの笛
京都府　笘屋閑人（写真）

向日葵や覗く妹の通信簿
東京都　林真悠子（着物古布）

放課後や電気回路の鹿おどし
山口県　長濱星龍（写真）

作務衣着て渋い親父に憧れる
神奈川県　清水創太（写真）

遠き海よりお疲れと鰻食ぶ
奈良県　堀ノ内和夫（写真）

またあした光る板から君の声
神奈川県　清水創太（写真）

厳冬にさすがの富士も顔しかめ
神奈川県　八十日目（写真）

審査員紹介

小西昭夫

子規新報編集長、愛媛新聞俳壇選者。句集『花綵列島』『ペリカンと駱駝』『小西昭夫句集』『チンピラ』、著書『金曜日の朝』『虚子百句』他。

中山和子

「初蝶」主宰。句集『分別顔』『迷路』、エッセイ『季語の思い出』他。

冨士眞奈美

俳人。女優。句集『瀧の裏』、エッセイ『東京俳句散歩』『身ひとつの今が倖せ』『てのひらに落花』他。

松本勇二

愛媛県俳句協会会長、「虎杖」代表。

八木　健

俳句美術館館長、滑稽俳句協会会長、「八木健の俳句遊遊」番組主宰。句集『ゆず』『逃水』『滑稽俳句集』『平成の滑稽俳句』、著書『俳句・人生でいちばんいい句が詠める本』他。

第12回ハイクアート賞募集要項

1. 俳句部門…八木健のアートに俳句をつけてください。
2. ハイクアート部門…ご自身のアートに俳句をつけて、お送り下さい。

募集期間：令和６年４月１日～令和６年７月31日　必着
審 査 員：小西昭夫　中山和子　冨士眞奈美
　　松本勇二　八木 健
結果発表：令和６年10月下旬予定。
主　　催：俳句美術館　（問合せ 090-8287-1390）

＊作品はオリジナルのもので未発表に限る。
＊募集内容の詳細は、俳句美術館ホームページに、令和６年３月頃掲載予定。「俳句美術館」で検索可。
http://www.haikubijutsukan.com
＊応募作品の著作権は主催者に帰属。